

19:23 さて、兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひとりの兵士に一つずつあたるよう四分した。また下着をも取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。

19:24 そこで彼らは互いに言った。「それは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」それは、「彼らはわたしの着物を分け合い、わたしの下着のためにくじを引いた。」という聖書が成就するためであった。

19:25 兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。

19:26 イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます。」と言われた。

19:27 それからその弟子に「そこに、あなたの母がいます。」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。

19:28 この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、「わたしは渇く。」と言われた。

19:29 そこには酸いぶどう酒のいっぴいはいった入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソブの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した。

19:30 イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した。」と言われた。そして、頭を垂れて、霊をお渡しになった。

「十字架につけると」と、聖書では簡潔に書かれています。十字架刑は体に釘が打たれるだけでも激しい痛みですが、それだけではありません。体を貫

通した釘に体重がかかって、激痛と大量の出血が起きます。また肩にかかる力によって、呼吸困難になり、恐ろしい苦しみがかかります。肩の関節や肋骨も歪み、はずれたことでしょう。イエス様は全身から血を噴き出させながら、体を激しく震わせたと思われます。そのような状況で以下にある出来事が起きました。

「下着」とは一枚の大きなもので、物資の乏しかった当時は、一生大切に着るものでした。多くは息子が12歳で成人するときに、母が愛情と祈りを込めて織ったそうです。それを面白がってくじを引くほどに、イエス様は嘲弄されたのです。さらにはそれを見ていた「イエスの母」マリヤは心が張り裂けるほどだったでしょう。

そのような苦しみさえ聖書に預言されていたのです。それは私たちを救うための神様のわざです。それほどにその愛は大きいということです。

またイエス様は耐え難い激痛の中で、母マリヤの今後を心配して、ヨハネに「息子」として面倒をみるように願いました。願いというよりは、ヨハネなら喜んでそうしてくれるという、信頼に満ちた宣言でもありました。

イエス様の心の中にはどんな状況でも、人に対する愛があるのです。イエス様は人としての弱さを持った状態で、そのように生きたのですから、私たちにも聖霊によってそれが可能であることを知って、主のために生きたいと願う人はそれを希望にしましょう。自分の愛を過小評価しないで、大胆に人を愛しましょう。

またイエス様からそのような無限の愛で愛されている自分の価値に感謝しましょう。何といってもイエス様の愛に感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

